

## 卒業研究 日本のサッカースタイル

### Japanese soccer style

1K03B196-3 氏名 山口 貴弘

指導教員 主査 寒川恒夫 先生 副査 大榎克己 先生

私はスポーツ人類学という授業を通して、さまざまなスポーツをみてきました。それぞれのスポーツには必ずルールがあり、そのルールに則ってフェアプレーの精神で行われていました。そしてどのスポーツもその国や地域、チームによって違いがあり、その国や地域の特質や、身体的特性、それぞれの文化を写し出していることを感じました。そこで私は、幼い頃からやっていて、世界でもっとも競技人口が多い、サッカーについて調べてみることにしました。サッカーは歴史のあるスポーツで、さまざまな国でメジャースポーツとして行われています。そのため国をあげて強化されていて、今なお進化し続けています。

また国や地域によって攻撃的であるチームや、守備的なチーム、組織的なチームなどさまざまです。このようにさまざまなサッカーのスタイルが作りあげられてきたのは、その国や地域の文化や人がどうかかわっているのかということに、興味を持ちました。

そこで今オシムジャパンが注目されている中で、一体、日本のサッカースタイルとは何なのか？日本の代表チームにスタイルは存在するのか？日本の良さとは何か？ということに焦点をあてて調べてみたいと思います。そして各国のサッカーとも照らしあわせて、日本のサッカーの現状を知りたいと思います。また日本のサッカースタイルの歴史、変化を知ること、これからのサッカーがどう変わっていくのかということ、ある程度推測できるので、これから選手として活躍していくために非常に役に立つと思ったのも一つの要因です。

歴代の日本代表監督が行ってきたサッカースタイルを調べてみると、日本代表は監督が変わるたびに、サッカースタイルそのものが変化し、そのつど作り直すという作業を繰り返してきたのだ。積み上げてきたものを「ゼロ」にし、新たなスタイルを作る。結局のところ、それは独自のスタイルを持たない、日本サッカーの現状を現している。監督が変わるたびにチーム力が落ち、そして時間

をかけてチームを再構築していく。つまり監督が変わるたびに「やり方」が大きく変化する、それは「独自のスタイル」を確立できていない日本を象徴していることでもある。

なにが日本のサッカーなのか？どういったスタイルこそが日本のスタイルなのか？日本のサッカーとって連想できるものは、今現在存在しない。それは伝統の足りなさや、サッカー文化がまだ育っていない事にもいえるのだろう。

しかしスタイルの確立はできていないものの、色んなスタイルのサッカーを受け入れやすいということはいえる。日本は自分の色が出せないのが弱点でもあるけど、その柔軟性が長所でもある。

日本は様々なサッカーに接しながら成功した、もうひとつのケースだといってもいい。ただコンビネーションのよさ、組織力、個人技という特徴は見えつつある。オシムという偉大な監督の基、日本のこれまで歩んできた経験を活かし、日本の良さを皆が理解しそれをプレーで体現していくことが必要である。各国にはそれぞれのスタイル、伝統、美学があり、歴史がある。それはその国の文化、経験、歴史が生み出したものだった。

日本がサッカー大国になるには、日本の良さであるコンビネーションのよさ、組織力、個人技術、敏捷性をいかに発揮して、それを武器として、スタイルを確立させることである。そしてそのスタイルの確立がプライドにつながり、負けない精神力を生むのである。

またJリーグや日本代表チームなどで大衆を魅了するようなプレーをすることで、サッカーが盛り上がり、サッカーに興味をもち、サッカーを知ることにより、日本のサッカーの現状もよりよく理解され、日本サッカーの発展に繋がると思う。

サッカーは伝統や文化の象徴である。